

小学校移転新築における土壌汚染概況調査の結果と対応について

平成30年4月に新築校へ移転する為に必要な用地取得に伴い、現子安小学校の土地（一部）との交換を実施するため、現子安小学校の土壌汚染概況調査を実施しました。その結果、「ふっ素及びその化合物」が溶出量の指定基準値（0.8mg/L）を超えて検出（1.3mg/L）されました。

溶出量の基準は土壌に含まれる有害物質が地下水に溶け出して、その有害物質を含んだ地下水を飲用することによる健康リスクを防ぐために設けられた基準であることから、直ちに関係局へ照会を行い、周囲に地下水の飲用利用がないことを確認しました。

1 調査を行った土地

所在地	面積	現況
神奈川区新子安一丁目24番1の一部	約413 m ²	グラウンド（南西角地の一部）、倉庫

2 概況調査の結果（実施時期：平成29年11月22日～平成30年1月15日）

交換対象敷地全体について、北を起点に10m区画に分け、調査対象部分（413 m²）について5点選び、土壌汚染対策法、横浜市生活環境の保全等に関する条例及び横浜市建設発生土受入基準に準ずる調査対象物質全38種類を調査

ア 土壌ガス調査

地表から深さ80～100 cmの土壌ガスを採取し、土壌ガス濃度の測定を実施
→検出されませんでした。

イ 土壌調査

地表から深さ50 cmまでの土壌を採取し、土壌溶出量濃度及び土壌含有量濃度の測定を実施。
→10m格子の1か所において「ふっ素及びその化合物」の土壌溶出量が土壌汚染対策法の基準値（0.8mg/L）を超過（1.3mg/L）していました。
（土壌含有量は基準値を満たしていました。）

3 今後の対応

基準値を超えて検出された「溶出量」については、地下水の飲用による健康リスクについての基準ですが、周囲に地下水の飲用利用はありませんでした。

学校運営上の影響はありませんので、現子安小学校のグラウンドにおきましては、今年3月までこれまで通り利用してまいります。

お問い合わせ先
教育委員会事務局教育施設課長 石井 聡 Tel 045-671-3230

（裏面あり）

案内図

